

文化庁シンポジウム

映像配信期間

ウィズコロナ・ アフターコロナにおける 文化芸術フェスティバルの 国際発信と インバウンド拡大に 向けた展望

2021年 2月8日(月)
～ 3月19日(金)

※映像をご覧いただくには、事前申し込みが必要となります。お手数ですが下記のとおりお申し込みください。

申し込み方法

「<https://forms.gle/8WRwjzawfjJm4cMN6>」にアクセスしていただき、必要事項をご記入の上お申し込みください。
本シンポジウム事務局より視聴のためのURLをご案内いたします。
※今後のシンポジウム運営のために視聴後のアンケート回答にご協力ください。



申し込み期間

2021年 1月12日(火)～ 3月17日(水)

※当日のパネルディスカッションでのご質問がある方は、1月20日(水)までにお申し込みください。

プログラム (約3時間)

文化庁挨拶

基調講演 (約40分)

アフターコロナのインバウンドの展望と
文化芸術フェスティバルの可能性

矢ヶ崎紀子 (東京女子大学現代教養学部教授)

情報提供 (約30分)

コロナ時代の国外の文化芸術フェスティバルの
国際発信の戦略と状況

綿江彰禪 (一般社団法人芸術と創造 代表理事)

事例報告 (約70分)

① 越後妻有アトリエンナーレ 2021 大地の芸術祭の準備状況

樋口正彰 (十日町市産業観光部観光交流課長)

② ヨコハマトリエンナーレ 2020 の取組

松元公良 (横浜市文化観光局文化プログラム推進部長)

パネルディスカッション (約40分)

パネリスト：矢ヶ崎紀子 / 樋口正彰 / 松元公良

モデレーター：綿江彰禪 ※敬称略

主催

文化庁

問い合わせ先

一般社団法人芸術と創造
info@pac.asia



文化庁

Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

ウィズコロナ・アフターコロナにおける文化芸術フェスティバルの国際発信とインバウンド拡大に向けた展望

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、様々な文化芸術フェスティバルが多なる影響を受けました。中止・延期の決断をしたものもあれば、実施方法を変更するなどして実施したものもあります。本シンポジウムでは、国内外の文化芸術フェスティバルの状況やインバウンドの状況などを整理した上で、ウィズコロナ・アフターコロナにおける文化芸術フェスティバルの国際発信とインバウンド拡大に向けた戦略・展望などを考えます。

基調講演・パネリスト

矢ヶ崎紀子

東京女子大学
現代教養学部国際社会学科
コミュニティ構想専攻教授



九州大学大学院法学府政治学専攻修士課程修了。
株式会社住友銀行、株式会社日本総合研究所総合研究部門上席主任研究員、国土交通省観光庁参事官（観光経済担当）（官民交流）、首都大学東京都市環境学部特任准教授、東洋大学国際観光学部教授を経て、2019年4月から現職。日本貨物鉄道株式会社取締役（社外）。東武鉄道株式会社取締役（社外）。国土交通省交通政策審議会委員、国土審議会特別委員。文化庁日本遺産フォローアップ委員会委員、文化財多言語整備事業有識者委員。農林水産省食料・農業・農村政策審議会専門委員など。
専門分野：観光政策。『インバウンド観光入門～世界が訪れたい日本をつくるための政策・ビジネス・地域の取組み』（見洋書房）ほか。

事例報告・パネリスト

樋口正彰

十日町市産業観光部
観光交流課課長



新潟県生まれ、立正大学文学部卒。
1990年に十日町市役所に入庁、農林課、体育課、財政課等を経て情報システム担当に従事、庁内システムの構築に取り組む。
2016年から観光交流課に所属、大地の芸術祭、観光誘客、インバウンド関連の事務に従事している。十日町市は日本有数の豪雪地としても知られており、十日町雪まつりや豪雪キャンプなど、雪を観光資源として活かした誘客を実施。
大地の芸術祭は、2000年の開催から20年を数える国際芸術祭であるが、コロナ禍での開催という難しい問題に現在チャレンジ中。

松元公良

横浜市文化観光局
文化プログラム推進部長



1985年横浜市役所に入庁。
2014年に横浜市が東アジア文化都市の初代都市を務めた際、担当課長として従事。現在は、これを引き継いだ日中韩都市間文化交流事業とともに、文化芸術創造都市としての横浜の魅力を発信するため、現代アート、ダンス、音楽と3つのテーマを3年周期で取り上げて毎年開催する芸術フェスティバルを担当。
今年度は、コロナ禍の中、世界に先駆けて開催した現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ2020」を担当し、閉幕後の現在は、来年度開催予定のダンスをテーマとした「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」の準備業務に従事中。

情報提供・モデレーター

綿江彰禪

一般社団法人芸術と創造
代表理事



2006年名古屋大学大学院経済学研究科修了。
2006年に株式会社野村総合研究所に入社し、官民のマーケティングや組織設計に関するコンサルティングに従事。2014年慶應義塾大学大学院文学研究科修了。2016年株式会社野村総合研究所を退職し独立。現在、一般社団法人芸術と創造代表理事。
政府や地方自治体を対象とした文化政策・産業政策および文化団体の運営に関するコンサルティングを行う。これまでの担当事業は50を超える。
詳細は<http://www.pac.asia/watae.html>参照。